

# 漫録

## 途上失業感

××新聞記者 藤 尾 哲



始末が悪い。丁度端穂の國に居て米の飯で苦勞するのと好一對だ。誰が悪いのかと云つた所て、時代の然らしむる所で時が來なければ解決は著きさうにもない。これも米の値段が悪いと云ふのと同じことだ。

計が立ち行かないものがザラにある。それ所ではなくかせぎたくとも仕事がないと云ふものが澤山あるのだから尙更

失業から自殺するもの、夫婦心中、親子の自殺、子殺し、捨子、泥棒、強盜、吾等に仕事を與へよと市役所へ押し掛

ける、内務省へ陳情する、失業調査の宣傳に青い顔をして

暗燈を擦ぎ廻る。等々々々、これは毎日のやうに新聞の社會面を賑やはす事柄である。リツチさんやせいちゃん（假名）の問題ではない。それこそ深刻なる社會問題である。

貧乏は罪悪なりと云ふ痛快極まる言葉さへあるのだ、將來失業は罪悪位な名言を吐かぬやつがないとも限らない。

僕は「ラリ〜」と街を歩きあちらこちらのショーウィンドウを覗いて歩くのが好きだ、勿論欲しいものを見付けたつて買へる柄ではないが……所で歩いて居て一番癪に觸はるのは道路の掘り返しだ、つい先頃迄掘り返して埋めたかと思へば又掘り返へして居る、商店は迷惑する、歩くものも困る、車や自働車も困る、電車も困る、數へて行けば道路を利用するものは皆困る、こんなことを思ふと益々癪に觸る。併し泥の中に身を埋めて働いて居る勞働者を見ると

き、失業々々と云ふ叫びを呼び起し、彼等も今日の仕事に有り付けたのだ、僅かな賃銀ではあらうが楽しい夕飯を執ることが出来るのだと思ふと今迄の癪も綺麗に何處かへ行

つてしまふ。

掘り返した道路に氣を奪はれて居ると恐ろしい音を立てて圓太郎自働車が走つて来る。その有様を形容すると『俺は震災後の東京市に買はれて来てから二年有餘デコボコの街路を根氣よく走つて居るのだ、今では御覽の通り骨と皮許りのやうにみすほらしい姿になつて居る、併し民營の乗合自働車よりもよく走るだらう』と性も根も盡き果てたが負けるものかと最後の空元氣を出して居るかのやうに見へる、彼等は遠からずお拂箱になるのだらう。自働車は無生物だからまあいやうなものだが圓太郎自働車が廢止されるとなれば従業員は何れも失業と云ふ恐ろしい罪惡の中へ放り込まれなければならないのだ。僕は圓太郎に代つて大藏省の人々にも申す、圓太郎改良に充てる爲の起債は何卒許可し給へ』と。

夕方の丸の内一帯から吐き出す人、その數は幾萬あるか知れないが若し失業と云ふ不安がなかつたらどれ程幸福だろうか。工場から出て来る従業員を初め賃銀に依つて生計

を立てゝ居るものに失業と云ふことが無かつたら社會的罪悪の大きな部分は確かに無くなるであらう。

## 二

然らば一體現在我國にはどれ位の失業者が居るのであ

らうかと云ふに情けないやら心細ひやら恥しいやら確かな

數所が概數さへもはつきり見當が付かないと云ふ始末、只位なことに氣が付かなくてどうなるものかと云ひたいのだが過ぎ去つたことに憤慨して見た所で追付くものではない。これからせいゞゝ氣を付けること。

不景氣は益々深刻化し失業者は續出して來た。若櫻内相が失業救濟のステートメントを發し失業救濟の爲に事業の範圍を限つて起債を許可する旨の聲明をしたのはこの八月である。この聲明に基ひて六大都市の代表者並に當該府縣の代表者會議が社會局で催された。この會議では失業救濟の爲に起す事業の種類並に之に關係する種々の事柄に就て協議したのであるがその場で決定すべき性質のものでないから兎も角各代表者はそれぐ歸任の上至急失業救濟に關する事業計劃を提出すると云ふことにして會議は終つたのである。

元來失業救濟と云ふが如き事業は國家が行ふべき筋合のものであると云ふ意見から當初社會局内には職業紹介所を

通じてその日の仕事に有り付けなかつた労働者には一日の生活費を補給してやつてはどうかと云ふ意見もあつた。併し直接金錢を與へると云ふことは社會政策上面白くないと云ふので便宜上六大都市に事業を起して貰ふことにしたのである、故に政府に於ても單に事業起債の許可のみでは到底初期の目的が達せられる譯でもなく、又失業救濟の爲にする事業は不熟練労働者を多く使ふのであるから都市の經濟的損失をも考慮して労働賃銀の二分の一以下の範圍に於て補助することにしたのである。

斯くして失業救濟の膳立ては出來たが至急提出すべき事業計画は少しも出て來ない、約一ヶ月を経て漸く大阪市から約二百萬圓の事業申請が來た。その種類は道路の鋪装、橋梁の架け換へ、河川堀等の浚渫並に埋立て等であつて工事豫算一百萬圓中七十萬圓が労働賃銀になつて居る。

### 三

大阪市のは前記のやうに出て來たが他の五大都市の分は

未だに出て來ない。何れ目下調査立案中のことゝ思ふがそれにしても餘りに呑氣過ぎはしないか又不熱心過ぎはしないかと云ひたくなる。しかし兎も角も遅れて居る理由として次のやうなことが云はれて居る。

一 六大都市は内相の聲明を以つて從來の緊縮政策を改めたものと思つて居た、故に會議に臨む前に色々と大計画を胸算用に入れて上京した、所が會議に臨んでそれが誤解であり許される事業が極めて小範圍に限られしかも市としては不急の事業に含まれれるものが多かつたので何れも失望したのである。故に餘り熱心になれなくなつたと云ふこと

二 失業救濟と云ふが如きことも元來國家がやるべきことで自治體は只國の事業に従つてやるべきものであると云ふこと

三 市當局はこれ迄失業救濟に對して積極的手段を施す考へがなく從つて準備が整つて居らなかつたこと以上の中からして直ちに市當局のみを攻むることは少

し酷かも知れない。しかし六大城市には何れも社會局なり又は社會課なりがあつて當時研究調査をして居る筈である。然るに未だに調査が出来ないと云ふのは如何に最良目に見ても熱心だとは云はれない。

失業救濟の解決策……解決ではないが當面の手段としては大別して只二つしかない、その一つは失業者に對して職を與へること、職を與へるとしたら如何なる仕事を起すかと云ふこと、もう一つは若し職が與へられなかつたらその日の生活費を支給してやると云ふことである。こんなことは誰れでも解り切つて居る。今度の失業救濟は前者を選んだのだから若し市當局が常に失業救濟問題を念頭に置いて居たら會議が終つてから遅くも數日中には具體案が作成されることと思ふ。救濟事業は何も一纏めにして出す必要はない。第一回を出し續いて第二回を追加申請しても少しも不都合ではないと思ふ、だから出來たものから早く出すのがこの場合最も必要なのである。

更に失業救濟は國がやるべきものか自治體がやるべきも

のかなどと云ふことは問題にはならない、この理由を書くのは餘りに馬鹿々々しいから止める。只失業問題と云ふことは國家として重大問題であるのみでなく都市行政の重要な部門を占めて來て居ると云ふことを知つて欲しい。失業問題と云へば殆んど都市に限られて居るからである。

從來の都市行政と云へば道路交通機關、瓦斯電氣、教育衛生、勸業と云ふが如きものゝみに重きを置いて來たやうに見へる。だから最近に重要性を帶びて來た失業問題に對して比較的無關心な態度を執つたのは無理もない次第と思ふ。都市でやる社會問題の研究調査は常に聯絡統一あるものでありたい、これは實際問題に當つて直ちに應用出来るやうにと云ふ意味である。……

街路の木煉瓦が澤山浮き上つて居る。いつもなら粗雑な工事を攻撃するのだが今日だけは仕事はいくらもあるものだとぐすぐつた氣持ちがした。